

# 丸山湿原群保全の会会報

(第198号)

発行日：2024年（R6）1月17日 編集／発行：丸山湿原群保全の会  
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788

090 - 1895 - 8061（今住）

E-mail:[maruyamashitugengun@gmail.com](mailto:maruyamashitugengun@gmail.com)

## 戦争は最大の環境破壊と差別を生み出します！

新年を迎えました。途端に能登半島地震。地震発生まではごくごく普通の「おめでとう」1日（1年）が始まっていたに違いありません。天災とはいえ、あれほどの地殻変動があるとは驚きでした。被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。「復興」とはまだ言葉に出すのも大変な状況ですが、能登の文化・産業が途絶えないことを祈っています。

以前能登半島を周遊をしたことがあります。千里浜や見附島の自然美、魚介類の美味しさに感動したことを覚えています。加えて輪島塗、珪藻土の七輪など特筆すべきものが多数。

もう一つ、旅行中に目にした「珠洲原発反対！」の看板。数十年前の話ですが、運動が実り実現せず。もし「珠洲原発」が出来ていたらいったいどうなっていたのでしょうか？「志賀原発」は停止中ということで「安全」らしいですが、変圧器配管からのオイル漏れが。情報が出るたびに酷いことに。もし、稼働中だったら？「想定外」という言葉も飛び出しました。でも「安全」だそうです。むやみに「反対！反対！」とは言いたくありませんが、「安全」とはいったい何か考えさせられます。「原子力」は「小さな太陽」。太陽をコントロールできるほど人類は進化したのでしょうか？「人類＝神？」何かおごりすぎているような気がします。あくまで私見。そして17日は「阪神淡路大震災」の日。

(今住 1月16日作成)

## 定期活動・生分解土嚢利用 ★12月24日（日）第1湿原深ぼれに土嚢投入

11月26日に協働で開削した「はげ山ロード」を利用し、深ぼれ水路の止水を行いました。当初は水路を埋める程度なら数個の土嚢で十分かと思っていたのですが、意外にも水路は土嚢を食っていく。平坦化をイメージしていたのですが、ダム化しなければ役に立たない状況でした。水は本当に



尾根のズリから凍て土回収中

少なく、チョロチョロと流れる程度。この天候がいつまで続くのか…しかしダムにすると水の溜まるスピードは驚くほど早い。先日、土嚢止めに伐った枯れ松も利用。土嚢が不足（間に合わない）するところは松だけで階段状に流れをコントロール？しました。効果が如何程かは不明ですが、少なくとも第1湿原下手に流れ込むスピードは落とせると思われます。

さて土嚢の土ですが、計画通りに東側の山の尾根筋にあるはげ山（ズリ）から運び出しました。ちょうど「凍て土」になっており、細かな土（シルト？）が確保できます。これを生分解土嚢に詰め込んでいきます。この土嚢はバイオプラスチック？でできている。3年も経てば水と二酸化炭素に分解されると



ソリでの輸送作戦



土嚢に詰められた土

か。と考えると中身（シルト）は流れてしまうのか？元の木阿弥？いやいや少なくとも供給不足のシルトの補填にはなると思ひましよう。ひょっとするとちゃんと土嚢分解後も土留めの松とともに深ぼれの改善になるかもしれません。しかし、分解してしまうのに（しまうから？）この土嚢袋は高い。100 枚で約 3 万 5 千円な〜〜り！これでも探した中で最も安かったのです。うたい文句は「国立公園で使える」だそう。な。「湿原での実績はありますか？」の質問に「ありません」と明確に



現場到着

返答がありました。この「きっぱりさ」を信用しました。しかし目が粗い。中からボロボロこぼれてきます。水がついた時、中身が「流れる」か「粘土化」するか注目です。安心してください「ぱっと見」はええ感じです。



松のセッティングを入念にチェック

土嚢詰め場所から現場まで山を約 100m 下る。この距離が微妙。1 つの重さ約 20 kg？シニア世代がどう運ぶ？

前回提案のあったソリ。出てきました…納屋から。約 30 年前に息子と遊んだもの。物持ちよろしいわ！土嚢を積んで山の斜面をうまく滑り降りられるか？まず人で試す。傾斜が緩いのと伐り株で無理。肉体的な問題もあるような。土嚢については前後にロープを付けて何とか…よかった…

土嚢の準備と同時進行で、松での土留め作業。処分した枯れ松を適当な長さに伐って水路を塞いでいきます。これだけでも結構いい感じ。水の流れが縦から面の流れに広がって行きます。そこに土嚢を積んでいきます。第 1 湿原の上部の水位（地下水水位）を上げたいので、いちばん上手にこの日詰めた土嚢全て投入。その数 24 袋。この数を多いと考えるか少ないと考えるか。今の我々には適度な作業。後日確認したところ、第 1 湿原上手の水位が上がってきている雰囲気でした。（エビデンスなし）



ダムのように積んだ土嚢 さてどうなる

湿原内の又マガヤ（沼茅）刈り取りが待っています。こちら重要。1 月末には北方系の両生類もそろそろ動き始めます。それまでに又マガヤを。次回の土嚢積みはさて、いつになるやら…

全くと言っていいほど降らない雨。降ったときにどうなるのかも気になるところです。豪雨で流され跡形もなくなるかも…そんな時代か？少なくともマイクロプラスチック汚染は起こらない。今回はとりあえずここまで。

### はなみずき保育園分園・本園登場★1月12日（金）15日（月）天使か悪魔か？冬バージョン

はなみずき保育園がやってまいりました。例のマイクロバス（ハイエース改造型）で。園長の運転です。宝塚市にある保育園ということで、農業体験や自然体験は西谷中心に活動。丸山湿原へは初夏と冬の2回。



天使のような悪魔のような…天使です

初夏にはハッチョウトンボやサワガニ。植物も味わったり飾ったり、匂ったりと五感をフル活用した時間を共にしています。

**12日は分園。**20名だったような。来るバスの中では「カニさんいるかな」とか、「ヘビが出たらどうしよう」とか「ワクワクモード」全開だったようです。残念ながらカニさんへびさんお休み中。この日は明け方まで冷え込んでいたのですが、朝はゆるくぬるんだ感じ。「わ



なんか氷みたい！と指さし

ろし」です。本来なら霜柱がそこら中であってザクザク進んでいくのですが…。雨も無く寒くもない「地球大丈夫？」の昨今です。

冬の湿原は金色のヌマガヤ以外見るものが少ない。そこで登山。登山といえば「ヤッホー！」。駐車場で今日の活動を説明中に「ヤッホー」の練習もしました。するとどうでしょう。不思議なことに「ヤマビコ」が野太い声で返ってきました。不思議や…。冗談はさておきしゅっぱーつ！

今回は時間の関係で短縮コース。第3湿原から第2湿原視点場、尾根を抜け眺めの良いズリへ。

第3湿原木道下に水はやはりなし。しかし園児が何やら見つけたよう。「ヒメタイコウチ？」そんなはずはない！「氷！」水があったのか？と思い覗いてみると霜柱（カーリーな）が立っていました。「霜柱や」とってはみ



霜柱（カーリー状）翌日撮影

たものの、「しもばしら？」そうか宝塚（街中）でも氷や霜柱は珍しいのかと実感。特に「霜柱」は土がなければできない。園内ならできそうですが…。湿原の「本来水があるところに霜柱」も悲しいですが。ま～面白いものを見つけられました。



第2湿原展望視点場で休憩（分園）

第2湿原視点場で休憩後、ジャングルを抜けてはげ山（ズリ）へ。でっかい砂場に興奮。眺めのいいところではもちろん「ヤッホー！」。なぜかここでも野太いヤマビコが「ヤッホー」と。不思議や。



登ってるのか下ってるのか不明 ズリ遊び

その後またジャングルを抜け、ロープを張ってズリ下り。昨年もそうでしたが、ここらあたりでグチャグチャの巨大砂場遊びに。誰がどうなっているかほとんど分からない。付き添いの先生はヒヤヒヤされているのではないかと毎回ほくそ笑んでいます。リスクヘッジはちとあまいかも。反省。ロープがリスクヘッジなんです…。あまり意味がないか？何とか怪我もなく下山。長靴から普通の靴に履き替えます。お尻は土まみれ？靴を履き替えるのに軽トラックの荷台がもってこい。と言う訳で軽トラックが占拠されました。「いいよ」の一言が…。運転席も「OK」と言っちゃった。面白いものであらゆるスイッチがいじられていました。ハザードランプ、四駆スイッチ、エアコン…お見事！なんでも触ってみる。いいじゃないですか。「OK」が出てるので。興味の芽、しっかり伸ばしていきましょう。

15日は本園。22名？時間はたっぷり。丸山湿原周遊コース。基本、分園と同じですが、第1湿原東から大きく回ります。視点場で休憩。その間に向かいの「はげ山ロード」へ上がる子、視点場先端で叫ぶ子それぞれ。本当によく遊びます。その後オオウラジロノキ（大裏白の木）の小リンゴ（傷みかけ？）を見つけて味見。まず私がお手本。さすが冬。渋みも適度に抜け何やら甘みも。その後試した先生。「だまされた…」のひと言。ま～1つ目は腐っていたみたいだし、2つ目はかなり渋かったようです。残念。騙す気はもうとうありませんので悪しからず。長い間しゃぶっていた園児も。あれはおいしかったのかな～？そして一気にダッシュモードに切り替え、「関電」鉄塔まで急坂を走ります。シルバー世代のガイドはヘロヘロ？園児はマイペース。子どもの方がえらいがな。鉄

第1湿原視点場先端へ背後では「はげ山ロード」登坂中（本園）



第1湿原視点場先端へ背後では「はげ山ロード」登坂中（本園）

塔下で雲の流れを見て一休み。(誰が休んだのか?)

その後は、分園と同じコースに。ズリ遊びは大変アクティブでした。今回は軽トラは占拠されず。バスの横で靴を履き替えていました。靴下、ズボンには相当土が入っていたと思います。バスのシートがザラザラになったかも?



長靴から履き替え 今日のお昼は「生姜焼き」(本園)

「楽しかった!」の大きな声にほっこりさせていただきました。

もうすぐ1年生。小学生になってもまた来てほしいものです。園長、「OB ツアー」



でた!ネロンガ?雲がいい... 企画しましょうか?

**定期活動** ★1月13日(土) 第3湿原残りと第1湿原又マガヤ刈り 基礎調査 11名で作業

目的	市内	市外
丸山湿原	30	21
登山・ハイキング	43	64
散歩	3	9

来場者数計 170人  
(竹筒ポストデータ)

場所	時間	気温【水温】	電気伝導 (EC)	PH
入口	10:00	7.0℃		
第3湿原	10:20	8.9【5.3】	21.4 μS/cm	6.2
視点場	10:35	10.5【2.4】	41.5 μS/cm	5.6
第1湿原	10:45	12.7【3.4℃】	41.3 μS/cm	5.8
第2湿原	11:00	12.1【8.2℃】	43.4 μS/cm	5.7

「寒」の時期に入ったとはいえ冷え込みはそうでもない。雪らしい雪も降らない。雨も降らない。

「過ごしやすい冬」なんでしょうね。何とか氷は張っています。例のそこにあってはいけないような霜柱(前出写真)も健在。第3湿原残りの部分と本丸第1湿原の又マガヤ刈りです。

刈払機5台投入。天気は曇り気味。突然の突風に吹き飛ばされそうになりながらひたすら作業。又マガヤの中に立つシルバー(ゴールド?)世代はアニメの1シーンを見ているようでした。「金色の野に降り立つシルバー世代」。神々しささえ感じてしまいました。しかも真面目。



「金色の野に降り立つ」シルバー世代

どうした!こんなに真面目にやっけていいのか?とっていると、「カエル!カエル!」と叫び声。これこれ。これが欲しいのよ。この時期、カエルといえばアカガエル類。月末頃には産卵も始まります。(多分)さぼろう...と刈払機を置いてすたこらサッサ。見ると「え?」ちと違う。お腹を精一杯膨らませて自分を大きく見せています。(襲われた時の防御)顎の下は黒い細かな斑点。灰色。イボガエル?イボも無い。丸山にはおらんやろ...南方系やし。足に吸盤。目の横に黒い筋。「アマガエル(雨蛙)」でした。こちら南方系のカエル。冬眠中だった?ところを起こされてしまったようです。動きは鈍いが大丈夫でしょう。また眠りについていただきます。それとも昨年からの「熊問題」のように暖かくて眠れなかったのでしょうか?でも氷張ってるし...あんまり考えんときましょう。



お腹を精一杯膨らますアマガエル

作業は順調に進み、3分の2ぐらいは片付いたか。運び出しはまだ残っています。小学校の作業も残しておかないといけませんからね。2月に作業体験。頼りにしています。卵塊数調査もどうするか?今年は3月初め?第4湿原も又マガヤ残っています。4月までに何とか頑張りましょう。



刈り取りは相当進んだ

**次回活動日** 1月28日(日) 2月9日(金) 小学校 10日(土) 25日(日) 3月9日(土) 卵塊数調査?